

## モモ(白桃)のカルテック施肥例 (10アール当り)

時期	目的	資材と施用法
礼肥 (収穫後～ 9月上旬)	根の活力強化、 樹勢の回復、 秋の養分蓄積、 花芽の充実  (枝が充実し、開花直 後の落花が無くなる)	収穫直後に <b>濃縮酵素液</b> 3～5リットルを薄めて灌水(300倍前後) または 500倍で葉面散布(葉が薄く傷んでいる場合) 9月上旬に 礼肥として、下記2種を同時施用します。
		<b>硫安</b> 20kg (または 速効性の肥料 20kg) <b>カルテックCa粒状</b> 20kg (または 畑のカルシウム20kg) ※N・Caの同時施用で 枝の徒長防止、蓄積と花器形成の促進。
元肥(冬肥) (落葉後、休眠期、 11～12月)	1年分の基本と なる地力作り、 翌春の樹体の 基礎を作る栄養 の準備	<b>ラクトバチルス</b> 600グラム (通気性、保水・保肥性向上) <b>堆厩肥</b> (牛糞など) 2トン (または <b>米ヌカ</b> 150kg以上) <b>硫安</b> 60kg ※複合肥料を使う場合は チツ成分 12kgとします。 堆厩肥が鶏糞等で、チツ成分が多い場合、硫安を減らします。 ※堆厩肥・有機物が不十分な場合は <b>硫酸カリ</b> 20kgを追加します。 <b>カルテックCa粒状</b> 60kg (または 畑のカルシウム) ※カルシウム栄養を しっかり効かせて地力作りをします。 ※モモは やや酸性に強く、pH:5.3～6.3が好適です。 土壌pHを測定して 調節して下さい。 ※上記4種を同時に施して、耕します(土と軽く混ぜる)。 施肥位置は 樹の近くだけでなく、園全体に広く全面散布します。
芽出し肥 (3月)	春～肥大期の 根の強化、 花と実、枝葉の 活力を強化	<b>濃縮酵素液</b> 3～5リットルを薄めて灌水(300倍前後)…根から樹勢強化。 ※まず根を強く働かせて、開花・結果・肥大の力をつけます。 ※特にモンパ病・根頭ガンシユ病・イボ皮病・線虫の惧れがある場合 もし元肥が不十分な場合は、下記の肥料も同時に施用します。 ただし開花前にチツ過多にせず、チツはカルシウムと併用します。また 土や樹がチツ過多なら カルシウムのみを施します。 <b>硫安</b> 20kg <b>カルテックCa粒状</b> 20kg (または 畑のカルシウム)
肥大期の散布 (4～7月)  状態によって適 宜、調節して下さ い。	初期の肥大促進	開花・授粉20日後頃(4月下旬)、 <b>濃縮酵素液</b> 500倍 葉面散布 ※不授精果は落果し、授精果はこの後、前半の肥大ピークとなる。
	幼果の充実、 新梢・葉の充実 (枝葉を伸ばし過ぎ ない)	開花27日後頃(5月上旬)、 <b>カルテックCa液状</b> 500倍葉面散布 その後、5月～6月下旬は、7日ないし14日間隔で Ca葉面散布。 ※新葉を厚くし、デンプン蓄積を進め、6月上旬の硬核期前後の落果(ジ ューン・ドロップ)や、黒星病・果実腐敗(灰星)を減らします。 ※特に徒長やカルシウム不足の場合、また高品質を狙う場合は、 6月上旬(収穫40日前頃、肥大休止期)に <b>カルテックCa粒状</b> 20～30kgを施用すると 非常に効果的です。
	根の退化防止、 果実の肥大促進	6月中下旬、 <b>濃縮酵素液</b> 500倍 葉面散布 (7日間隔で2回) ※梅雨で傷み、減退する根の力を回復させ、肥大の後半ピークにもって 行きます。上記カルテックCa液状とは 交互に散布します。
	成熟促進、 8月・花芽分化促進	収穫20日前頃(6月末～7月中旬)、 <b>カルテックCa液状</b> 500倍 葉面散布(肥大ピークを過ぎてから7日間隔で2回散布が効果的)

※**土壌病害・木の衰弱への対策**…特にひどい場合は濃縮酵素液100倍で根を洗い(1本100リットル)、  
3日後、ラクトバチルス30グラムを米ヌカ7kg に混ぜて 散布し、覆土。その後、濃縮酵素液300倍を  
7日間隔2回灌水(灌注)し、あとも根を伸ばす手当て継続。

※標準品種: (中生)白桃, 大和白桃, 清水白桃。およびネクタリン(無毛の油桃)  
(早生)白鳳, あかつき, さおとめ等の場合…元肥2割減。